

令和2年度「英語指導力向上事業」～会津若松市立第三中学校～

現状の課題

- ・**現状の課題**: 諸テストの結果、個人差が大きく下位生徒の割合が比較的大きい。基礎・基本の確実な理解を図るとともに、正しく伝え合うスキル(話す・書く)アップと、読解力の育成が必要である。
- ・**現状課題のための手立て**: コロナ禍の中、学習過程や言語活動の内容・方法を工夫する。基礎力・語彙力の強化を図るとともに、伝え合う言語活動に継続して取り組む授業を実践する。

具体の取組の内容

○ CAN-DOリストの活用の工夫

- ① 単元ごとの言語活動を明確にする。: パートごとの簡単な言語活動を、単元のまとめとしての総合的な言語活動や“Presentation”の単元での言語活動に結び付けていく。
- ② 目指す姿・評価規準を明確にし、生徒の学習意欲と自己評価力の向上を図る。: 毎時間の提示、リスト配付、モデル提示、ワークシートへの添付をし、自己評価を行う。

○ CAN-DOリストを生かした言語活動の改善 (研究授業 11/27)

- ① パートごとの簡単な言語活動の積み重ねをもとに、単元のまとめとして、目的・場面・状況を考慮した4技能の総合的・統合的言語活動を設定し、継続して取り組む。
- ② コロナ禍をふまえ、生徒の考え・経験を基にしたwriting活動の強化や、長文読解力(reading力)やlistening力の育成を図る学習活動の工夫に取り組む。

○ パフォーマンステストの実践 ① ALTとの連携 ② 技能別の実施: writing(紹介文、レポート、詩等)/speaking(英会話・スピーチ)



生徒自身の考えをもとに会津若松市の良さを伝える紹介文を作成する言語活動



ALTとの英会話パフォーマンステスト

○ ICTの活用→電子黒板・デジタル教科書の活用

○ 基礎力・語彙力を育成する指導の工夫: ① 基礎・基本をメインとした授業シートの作成・活用 ② 単語テスト ③ スプリングコンテストの実施 ④ 定着確認シートの活用

○ 読解力を育成する指導の強化: ① 長文読解指導の強化(高校入試対応、高校での学習へのつながり) ② 定着確認シートやふくしま活用力育成シートの活用

○ 表現力を育成する指導の強化: ① ALTとの言語活動の工夫 ② Personalizationを意識した言語活動の充実 ③ 定着確認シートやふくしま活用力育成シートの活用

成果①

○ 生徒アンケート結果より(2学年106人)

2019年全国学力・学習状況調査の英語に関する質問項目について、2年生対象に7月と1月に実施した。「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計%の変容を確認した。その結果、ほとんどの質問項目において、7月より数値向上が見られ、授業改善の成果及び生徒の意識向上が見られた。右記の表の「A」に関しては、常に要点・概要をとらえさせてから細部の理解を深める学習過程を実践したこと、「B」に関しては、Warm-upでの英会話活動やメイン学習の導入として、内容に関する対話を継続して実践してきたこと、「C」に関しては、コロナ禍の中、writing活動に力を入れた言語活動をより多く実施してきたこと、「D」に関しては、日々の授業での簡単な言語活動や、単元のまとめとしての総合的な言語活動において、意図的に4技能を組み合わせた言語活動の実践を試みてきた結果であるととらえる。特に、Personalizationを意識し、生徒の考えや経験を基にした自己表現と相手とのやりとりから、自己理解と他者理解を深めることや英語を通して視野を広げていくことを試みた。教師の意図的・継続的な授業改善が大切であると考える。

質問項目	英語の勉強は大切だと思う	英語の授業はよくわかる	A:英語を聞いて概要や要点をとらえる活動	A:英語を読んで概要や要点をとらえる活動	B:準備をすることなく自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動	C:自分の考えや気持ちを書く活動	D:聞いたり読んだりしたことを、英語で問答したり意見を述べ合う活動	D:聞いたり読んだりしたことを、書いてまとめたり考えを書く活動
2019全国4月	85.6%	66.4%	79.4%	81.4%	63.0%	80.1%	77.4%	74.6%
2020本校7月	93.3%	83.7%	86.5%	91.3%	68.3%	90.4%	75.0%	84.6%
2021本校1月	93.4%	90.6%	94.3%	96.2%	81.1%	93.4%	88.7%	96.2%

成果②

- 働きかけによる英語検定試験受験者数の増加: H30年度: 71名 → R2年度: 106名
- コロナ禍の中、CAN-DOリストに基づいた言語活動の実践の工夫: 1学期はwriting, listening, readingを中心に、2学期半ば以降speakingも取り入れての実践。口頭で伝え合える喜びが、新たな英語学習へのモチベーションになったようである。
- 個人差に対応した指導の充実: ICT活用。バランスを考慮した基礎・基本と活用力の指導。

今後の課題・方向性

- 新しい学習指導要領に基づくCAN-DOリストの作成・活用と授業改善: 「小・中・高の連携」「3観点」「4技能の育成を図る言語活動の工夫」「主体的・対話的で深い学び」「見方・考え方」「目的・場面・状況」「聞き手、読み手、話し手、書き手への配慮」等、これらのキーワードを考慮したCAN-DOリスト作成・活用と授業改善に取り組む。
- 新しい生活様式の中での効果的なSpeaking活動の工夫(英会話・スピーチ)